

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 JTMとくしま日本語ネットワーク

1 事業の趣旨・目的

外国にルーツを持つ子どもたちを取りまく状況や将来の生活を理解し、子どもたちに必要な日本語が指導できる指導者を養成し、支援体制の充実を図る。

JTM 会員および、県・自治体教育委員会、各国際交流団体、マスコミや自治体広報を通じて、現職・退職教員に広く受講を呼びかけ、講座修了後は、「日本語教室設置運営」区分の委託事業「親子にほんご寺子屋」にも指導者としても参加してもらう。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月7日 13:30～ 15:00	徳島県国際交流 プラザ(トピア)	兼松 文子 村松 幸子 山溝十糸子 辻 暁子 長町 順子 玉置 房 森 清 真鍋 憲昭 森井 哲也	1)開催主旨について 2)文化庁提出書類について 3)県教委等への 後援依頼について 4)今後の運営につ いて 5)後援団体の検 討	1)開催趣旨について 開催趣旨について確認した。 2)文化庁提出書類について 文化庁に提出する下記の書類 について検討および確認 をした。 (1)業務計画書 業務計画書の内容(Ⅰ委託 業務の内容 Ⅱ委託業務 経費)について検討した。 (2)任意団体に関する事項 団体名、団体の目的、団体 の構成員及び役割等につ いて確認した。 3)県教委等への後援依頼に ついて 今回の文化庁への応募採択 の報告・お礼と後援申請を兼 ねて、次週、兼松会長、真鍋 委員、長町委員があいさつに 行くこととした。 5)今後の運営について 工程表に基づき役割分担に ついて確認した。 6)後援団体の検討 後援団体について協議した 結果、県教委、徳島市教委、

				各国際交流団体、マスコミ（徳島新聞、四国放送、NHK）に依頼することとなった。
6月18日 13:30～ 15:00	徳島県国際交流 プラザ(トピア)	兼松 文子 村松 幸子 山溝十糸子 辻 暁子 長町 順子 玉置 房 竹治 博 森 清 真鍋 憲昭 杜美 智 大坂 庄司	1) 日程 2) 進捗状況 3) 運営体制の確認 4) 「親子にほんご 寺子屋」事業との 連携について 5) その他	1) 日程の確認 7月23日・30日 8月6日・27日 全て土曜日・午前9時～12 時、午後1時～4時の全8回 であることを確認した。 8月21日(日)は親子にほん ご寺子屋の見学日とすること とした。 2) 進捗状況 ・AJALT から各回のテーマが 届き次第、チラシを仕上げ、 県教育委員会に送る。同時 に市教育委員会連絡便に入 れる。 ・学校教育関係、国際交流団 体にチラシ・發文・新聞記事 等を入れて発送する。 3) 運営体制の確認: 工程表 に沿って検討・確認 ・後援依頼、チラシ作成、広 報、取材依頼、開催準備、開 催期間の役割・対応等 4) 「親子にほんご寺子屋」事 業との連携について ・希望者に8月21日(日)の にほんご寺子屋を見学しても らう。 5) その他 ・AJALTの講師の先生に運 営委員会に出席していただ く。 ・後援依頼をした時に、徳島 市教委や地域の国際交流協 会の方から、ぜひ参加したい という反響があり、これまで 子どもたちの支援のためのセ ミナーを重ねてきたことが認 知されていると実感した。
7月29日 18:00～ 19:20	徳島県労働者福 祉協議会ミーテ ィングルーム	金早苗先生 兼松 文子 村松 幸子 山溝十糸子 辻 暁子 玉置 房 森 清	1) 受講状況に ついて 2) セミナーの流れ について 3) JTM の支援、 徳島県内の支援状 況について 4) セミナーでお	1) 受講状況について 別紙参加者名簿により、セミ ナーの申し込み状況および7 月23日の参加状況について 確認をした。 2) セミナーの流れについて 7月29日(第3回、第4回の 流れについて確認をした。 3) JTM の支援、徳島県内 の支援状況について 兼松会長より、内田先生に、 JTM の支援の現状および徳

			聞きたいことについて	<p>島県内の支援状況について説明があった。</p> <p>4) セミナーでお聞きしたいことについて</p> <p>別紙質問集により、運営委員から、セミナーでお聞きしたいことについて質問があり、金先生から回答いただけることとなった。</p>
<p>8月5日</p> <p>18:00～</p> <p>19:20</p>	<p>徳島県労働者福祉協議会ミーティングルーム</p>	<p>内田雅子先生</p> <p>兼松 文子</p> <p>村松 幸子</p> <p>辻 暁子</p> <p>森 清</p> <p>玉置 房</p> <p>森井 哲也</p> <p>古山 陽子</p>	<p>1) 受講状況について</p> <p>2) セミナーの流れについて</p> <p>3) JTM の支援、徳島県内の支援状況について</p> <p>4) セミナーでお聞きしたいことについて</p>	<p>1) 受講状況について</p> <p>別紙参加者名簿により、セミナーの申し込み状況および 7 月 23 日、30 日の参加状況について確認をした。</p> <p>2) セミナーの流れについて</p> <p>8月6日(第5回、第6回の流れについて確認をした。</p> <p>3) JTM の支援、徳島県内の支援状況について</p> <p>兼松会長より、内田先生に、JTM の支援の現状および徳島県内の支援状況について説明があった。</p> <p>5) セミナーでお聞きしたいことについて</p> <p>別紙質問集により、運営委員から、セミナーでお聞きしたいことについて質問があり、内田先生から回答いただけることとなった。</p>
<p>9月17日</p> <p>13:30～</p> <p>15:00</p>	<p>ぼんじゅうる 個室</p>	<p>兼松 文子</p> <p>村松 幸子</p> <p>山溝十糸子</p> <p>辻 暁子</p> <p>長町 順子</p> <p>玉置 房</p> <p>竹治 博</p> <p>大坂 庄司</p> <p>谷口 真弓</p>	<p>1) 参加状況、内容について</p> <p>2) アンケートより</p> <p>3) 事業報告書の作成について</p> <p>4) 成果と今後の課題について</p>	<p>1) 参加状況、内容について</p> <p>プログラムおよび参加者名簿により、参加状況と内容について報告と確認があった。</p> <p>2) アンケートより</p> <p>・アンケート回答結果の一部確認があった。まだ回収できていない人もいたため近日中の提出を促し、至急集計を進める旨確認があった。</p> <p>・今回は全回通してのアンケートをとったが、次回同様の事業をする機会があれば、より具体的な意見を聞くため、毎回簡単な感想シートを配布してもよいのではないかと意見があった。</p> <p>3) 事業報告書の作成について</p> <p>①提出書類について</p> <p>提出書類の確認があった。</p> <p>②会計処理について</p> <p>辻事務局長から収入と経費について報告があり、承認さ</p>

				れた。 4) 成果と今後の課題について 今回のセミナーの成果と今後の 課題について意見交換が された。
--	--	--	--	---

【写真】



3 養成講座の内容について

(1) 講座名

外国にルーツを持つ子どもたちのための日本語指導者養成セミナー

(2) 目標

外国にルーツを持つ子どもたちの学習に必要な日本語の指導ができる指導者を養成し、支援体制の充実を図る。

(3) 受講者の総数 48人

(出身・国籍別内訳 日本 48人)

(4) 開催時間数(回数) 24 時間 (8 回)

(5) 参加対象者の要件

学校教員および退職教員、JTMとくしま会員、日本語指導・支援の経験者で修了後、子どもの支援活動に参加できる人

(6) 受講者の募集方法

会員への会報配布およびメール配信。各国際交流協会を通じての周知。徳島新聞での掲載。県教育委員会を通じての県内教育関係者への周知。市教育委員会を通じての市内教育関係者への周知。

(7) 会場 ヒューマンわーくぴあ徳島(徳島市昭和町)

(8) 使用した教材・リソース

『にほんごをまなぼう』、『たのしいがっこう』、『みえこさんのにほんご』、『公文のカード』、『ひろこさんのたのしいにほんご』、『小学校国語教科書(光村図書、学校図書)』、『中学校国語教科書(光村図書)』、『中学校社会科教科書』、『サマードリル英語・数学』、『面接資料カード(AJALT 作成)』、『外国人児童・生徒を教えるためのリライト教材』、『小学校「JSL 国語科」の授業づくり』、『ようこそ！さくら小学校へ～みんななかまだ～』、『かんじだいすき(一)～(六)』、『かんじだいすき(一)～(六)漢字・絵カード』、『かんじだいすき～社会・理科編』、『かんじだいすき～国語・算数編～』、『個人記録表・連絡簿(JTM 作成)』、『凡人社日本語教材・目次子供向け教材頁』

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月23日 9:00～12:00	外国にルーツをもつ子どもたちの 日本語支援を考える1～母語・母 文化を見つめて～	公益社団法人国際日本語 普及協会 地域日本語教育	26 名
7月23日 13:00～16:00	外国にルーツをもつ子どもたちの 日本語支援を考える2～幼い子ど もたちを対象に～	担当理事 関口 明子	25 名
7月30日 9:00～12:00	小学生への具体的支援を考える	公益社団法人国際日本語 普及協会所属日本語教師	28 名
7月30日 13:00～16:00	中学生への具体的支援を考える	金 早苗	31 名
8月6日 9:00～12:00	具体的な教材を考える1～リライ トの考え方を使って	公益社団法人国際日本語 普及協会所属日本語教師	25 名
8月6日 13:00～16:00	具体的な教材を考える2～DVD 「ようこそ！さくら小学校へ」を使っ て	内田 雅子	26 名
8月27日 9:00～12:00	漢字学習について～かんじだい すきシリーズを使って	公益社団法人国際日本語 普及協会 地域日本語教育 担当理事 関口 明子 公益社団法人国際日本語 普及協会所属日本語教師 金 早苗	28 名
8月27日 13:00～16:00	①県内公立学校での取り組み事 例報告(13:00～14:00) ②外国にルーツを持つ子どもたち の教室開設と運営(14:00～ 15:00) ③セミナーのまとめと意見交換会 (15:00～16:00)	①徳島市川内北小学校教 諭 徳永満枝 ②JTMとくしま「親子にほ んご寺子屋」リーダー 長町 順子 ③(①②ではコメンテーター として)公益社団法人国際 日本語普及協会 地域日本 語教育担当理事 関口 明子 ③(①②ではコメンテーター	26 名

		として)公益社団法人国際 日本語普及協会所属日本 語教師 金 早苗	
--	--	--	--

【写真】



第2回(7月23日午後)



第6回(8月6日午後)



第7回(8月27日午前)



第8回(8月27日午後)

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

(別紙にて報告)

②実施主体からの研修内容結果評価

参加者は48名で、内訳は会員27名、教育委員会3名、現職教員9名、退職教員3名、地域支援者6名であった。

会の活動としては、学んだことが「親子にほんご寺子屋」で生かせるとともに、今年度より、徳島県教育委員会より支援要請を受け、県の補助事業として、学校での取り出し授業を行っているが、2学期を控えて支援要請が相次いでいるなか、研修内容を学校での支援にもすぐに生かせることは大きな成果につながった。

現職教員からは、学んだことを、受講後早速生徒に実践してみたという声も寄せられた。

また、「親子にほんご寺子屋」の見学日を設けたことにより、見学に参加した会員外の退職教員、地域支援者には、セミナーで学んだことを念頭に置きながら、支援の現場を見てもらうことができ、セミナー終了後、早速入会し、「親子にほんご寺子屋」のスタッフとして活動を始めた人もいた。

これらにより、当初掲げていた、「外国にルーツを持つ子どもたちをとりまく状況や将来

の生活を理解し、子どもたちに必要な日本語が指導できる指導者を養成し、支援体制の充実を図る」、「講座修了後は、『日本語教室設置運営』区分の委託事業『親子にほんご寺子屋』にも指導者としても参加してもらおう。」という目的は、その第一段階を達成できたものとする。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今回セミナーで学んだことを生かし、今後も指導者としての専門性をより高めながら、行政や学校関係者との連携を深め、徳島県全体の外国人支援体制の充実に寄与していく。また、今後もこのようなセミナーを継続することにより、各地の地域支援者にも、県内の外国にルーツを持つ子どもたちへのよりよい支援のあり方や、支援体制作りを提言していきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

(10)②でも述べたとおり、セミナー終了と時期を同じくして、県の補助事業においても、学校や行政からの支援要請が相次ぐようになった。これは、行政からも信頼を寄せていただいたことの証であるとする。そして会としても、その信頼に応えるべく、セミナーで実践的な知識やノウハウを得たことにより、要請に即対応できる人材を派遣することができた。今回のセミナーを機に、地域支援者と行政との連携は、大きく前進したものとする。

② 研修後の人材活用

会員には、「親子にほんご寺子屋」で子どもたちの支援をしてもらうほか、より研鑽を積み指導力を高め、学校からの支援要請があった場合、派遣スタッフとして現場での支援に当たってもらう。一般参加者には、各地域で身近にいる外国にルーツを持つ子どもたちへの支援に生かしてもらう。

(12) 今後の課題

今回は、なんらかの形で子どもの支援にかかわりのある人を対象として開催したが、より多くの人に外国にルーツを持つ子どもたちの実情を知ってもらうためにも、もっと対象者の幅を広げて募集を行うことも検討する必要がある。また、今回は今日の前にいる子どもの支援をどうするかということを主なテーマとして具体的な指導の仕方を学んだが、今後はまたもう一歩進んで、「受験」というものを見据えた段階的な支援の仕方にも取り組む必要がある。